



代表取締役社長

白居 賢

株主の皆様へ

初冬の候、株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この上半期の世界経済は、米中貿易摩擦の長期化などに伴い、減速感が一層強まりました。当社の主要顧客である電子部品業界でも、スマートフォンの減速、自動車販売の伸び悩み、半導体装置等への投資停滞で、主要貨物である電子部品の総物量は盛り上がり欠け、厳しい状況が続きました。

このような事業環境のもと、当上半期の業績は減収となりましたが、短期的な売上・利益確保のための施策に加え、将来の成長を見据えた様々な施策を計画通り進めてきました。海外を中心に拠点・ネットワークの拡充を進めビジネス拡大に向けた布石を打つと共に、運送・倉庫オペレーションの生産性向上のためのシステム化や自動化に取り組んでいます。これら一連の諸施策は、景気が回復し、電子部品の物量が再び増加に向かう中で大きな効果を生み、当社の成長に寄与するものと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年9月 第2四半期

IRレポート

～ 2019年4月1日から2019年9月30日まで ～

【株主優待制度の新設に関するお知らせ】

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に当社株式を保有していただくことを目的として株主優待制度を新設いたします。

◆対象となる株主様:

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上を保有されている株主様

◆優待内容:

対象の株主様に対し、一律にQUOカード1,000円分

◆贈呈時期:

6月下旬頃

※2020年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上を保有されている株主様を対象として開始いたします。

株式の概況 (2019年9月30日現在)

■株式の状況

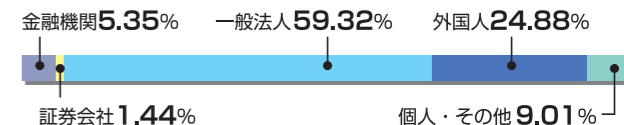
発行可能 株式総数 70,000,000 株	発行済 株式総数 35,474,400 株	株主数 2,279名
---------------------------------	--------------------------------	---------------

■大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
アルプスアルパイン(株)	16,526	46.7
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	2,827	8.0
TDK(株)	2,804	7.9
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG	962	2.7
アルパイン(株)	792	2.2

※持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

■所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 (連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部
公告方法	電子公告

【ご注意】
・住所変更等のお手続きは、口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせ下さい。
・特別口座に記録された株式に関するお手続き、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせ下さい。

会社情報 (2019年9月30日 現在)

社名	株式会社アルプス物流(証券コード 9055)	
英文社名	ALPS LOGISTICS CO., LTD.	
本社所在地	〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1756	
電話番号	045-531-4133(代表)	
設立	1964年7月2日	
資本金	23億4,904万円	
社員数	(連結) 5,864名	(単独) 952名
運行車輛数	(連結) 3,413台	(単独) 650台
倉庫面積	(連結) 862,461m ²	(単独) 288,873m ²

物流個性
お客様のための、最適物流を。

- ホームページURL <http://www.alps-logistics.jp/>
- IR情報URL <http://www.alps-logistics.jp/jpn/ir/index.html>

当第2四半期の連結業績実績及び通期予想

(単位：百万円、率：前年同期比増減)

2020年3月期 第2四半期累計(実績)	
売上高	51,227 (△2.1%) ↓
営業利益	2,066 (3.0%) ↑
経常利益	1,949 (△6.6%) ↓
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,133 (△4.6%) ↓

2020年3月期(予想)	
売上高	106,000 (1.0%) ↑
営業利益	4,700 (△0.5%) ↓
経常利益	4,600 (△4.8%) ↓
親会社株主に帰属する当期純利益	2,650 (6.0%) ↑

連結業績の概況 (2019年4月1日～2019年9月30日)



当社グループでは、中長期的に電子部品の需要拡大が見込まれる地域を中心に、新たにHUB拠点の整備とネットワークの充実を進め、新規取扱貨物量の拡大を図っております。アセアン、南アジア地域においては、7月にタイで大型の新倉庫を竣工、営業を開始しました。欧州では、東欧展開の足掛かりとしてハンガリーに事務所を開設しました。また、㈱ロジコム社と合併会社を設立、海外での車載関連ビジネスの拡大を目指しております。当期の連結売上高は、前期比2.1%減の512億円に、連結営業利益は、3.0%増の20億円となりました。

▼電子部品物流セグメント

電子部品業界の荷動きは低調に推移しましたが、これまで拡充した拠点の充実を図ると共に、安定稼働と生産性向上に取り組ましました。海外の外販向けで売上高を伸ばしましたが、主に国内でグループ向けの売上高などが減少し、全体としては減収・減益となりました。

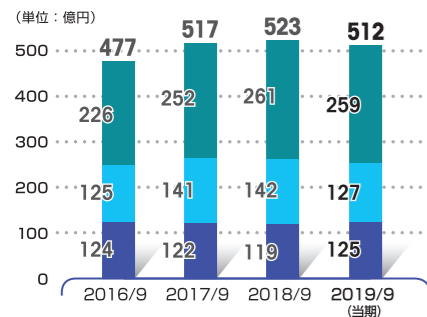
▼商品販売セグメント

世界的にスマートフォンや自動車などの市況悪化を受け、電子部品の需要が減少したことに伴い、減収・減益となりました。

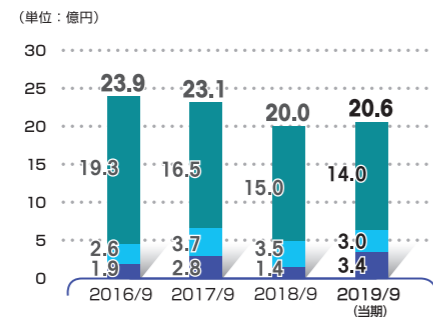
▼消費物流セグメント

生協関係の宅配及び化粧品関係の商品センター業務の拡販により、増収・増益を確保することができました。

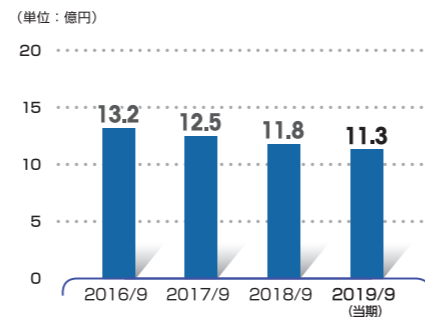
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



トピックス



タイ初の自社倉庫を竣工

当社は、タイでは初となる自社倉庫「バンナ倉庫」をバンコク近郊に竣工し、7月より営業を開始しました。タイの保管事業は、レムチャバン、アユタヤ、バンナの賃借倉庫にて業容を拡大してまいりましたが、電子部品・自動車関連部品メーカーの集積するバンナ地区にて、昨今の取扱貨物量の増加及び更なる需要の拡大が見込まれることから、倉庫を建築し、旧バンナ倉庫から移転することといたしました。



新バンナ倉庫

新バンナ倉庫は3階建て、約2万㎡の広さで当社アセアン拠点最大の倉庫です。空調設備による温湿度管理や静電気対策のスペースもあり、電子部品・半導体の取り扱いに最適な倉庫環境を整えております。



ホワイト物流に賛同

当社は、国土交通省、経済産業省、農林水産省の3省が提案する「ホワイト物流」推進運動に賛同し、自主行動宣言を提出いたしました。

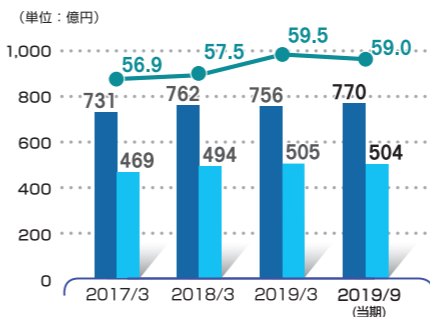
当社はこれまで、物流改善提案、パレット等の活用、待機時間削減の取り組み等を通じ、物流の効率化やドライバーが働きやすい環境づくりに取り組んでまいりました。

「ホワイト物流」推進運動への参加を通じ、更に荷主企業・運送事業者と強いパートナーシップを構築し、豊かな社会の実現に貢献いたします。

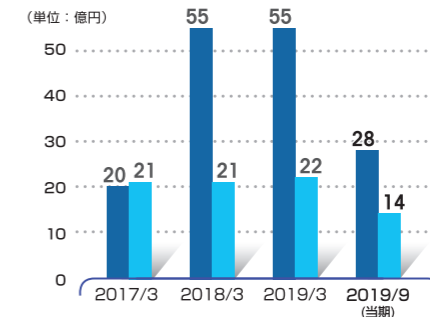


国土交通省「ホワイト物流」ポータルサイト

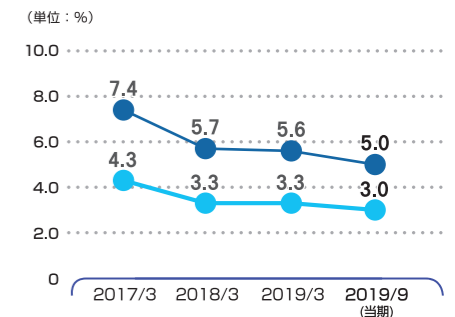
財政状況



設備投資・減価償却費



ROE・ROA



※ 2019/9期は年率換算して算出しています。